

# 高茶屋大垣内遺跡(第6次調査) No.5

## 発掘調査が終了しました。

今年5月から行ってきた高茶屋大垣内遺跡の第6次調査が終了しました。

今回の調査では、古墳時代から中世にかけての竪穴建物や掘立柱建物が確認されたほか、土器を焼いていたと思われる奈良時代の土坑(あな)が見つかりました。そのまわりからは粘土をためる穴や土器をつくっていた工房もみつき、当時の土器づくりの様子がよくわかります。

今後は遺物の実測や整理をおこなっていき、これまでの調査で分かったことと関係づけながら、考察をすすめていく予定です。

今回の調査にご協力をいただいたみなさまに、あらためて御礼申し上げます。



灰色に見えるのはすべて粘土です。  
土器を焼くための粘土をためていた土  
坑(あな)と思われます。



工房と思われる竪穴建物の中の様子  
です。黒矢印の部分では土器が3,4枚  
重なって完全な形で見つかりました。  
また、その隣(白矢印)には粘土のブロ  
ックが出土しています。この建物の中  
で土器の製作や保管を行っていたもの  
と思われます。

矢印の部分では、周りの土が赤く変  
色しています(黒矢印)。このことから、  
この場所で土器を焼いていたと考えら  
れます。失敗品と思われる土器の破片も大  
量に出土しました(白矢印)。



## お問い合わせ先

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503 三重県埋蔵文化財センター

担当:調査研究Ⅰ課 樋口・佐藤

電話: 0596-52-7028 FAX: 0596-52-7035